資料2

道内の感染状況等について

【令和4年11月25日】

主な指標の状況

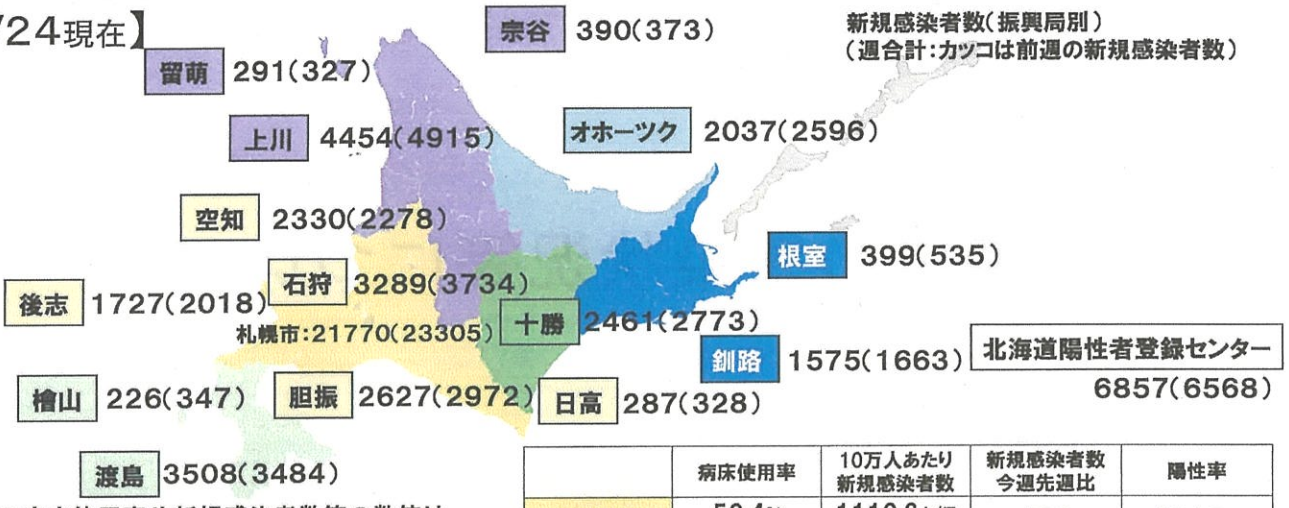
11／24	レベル	移行指標 病床使用率	移行指標 重症病床使用率	移行指標 10万人当たり新規感染者数	その他指標 新規感染者数今週先週比	その他指標 陽性率
全 道	2	52.0%（1188床）↗	10.3%（12床）↗	1046.1人/週（54228人/週）↘	0.93 ↘	67.9% ↘
札幌市	2	56.4%（412床）↗	10.2%（5床）↗	1110.3人/週（21770人/週）↘	0.93 ↘	124.3% ↗
札幌市を除く地域	2	50.0%（776床）↗	10.4%（7床）→	1007.1人/週（32458人/週）↘	0.93 ↘	52.0% ↘
レベル２ 移行指標		20% 又は 20%		15人/週		
レベル３ 移行指標		50% 又は 50%		－		

※（　）は実数。 各指標の動向（矢印）は、１週間前との比較。

（注）・令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
・レベル分類については、国に対し新たな考え方を示すよう求めており、示されるまでの間は、公表しなくなった指標を除いて運用する。
・全道及び札幌市を除く地域の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数を含めて算出。
・検査数に無料検査、抗原キット自己検査等を含まないため、陽性率が100％を上回る場合がある。

地域における主な指標の状況

【11/24現在】



	病床使用率	10万人あたり新規感染者数	新規感染者数今週先週比	陽性率
札幌市	56.4%（412床）	1110.3人/週（21770人/週）	0.93	124.3%
道央圏（札幌市除く）	50.9%（253床）	767.3人/週（10260人/週）	0.91	41.4%
道北圏	61.4%（205床）	883.0人/週（5135人/週）	0.91	48.7%
道南圏	40.4%（90床）	908.3人/週（3734人/週）	0.97	34.4%
十勝圏	62.6%（107床）	741.5人/週（2461人/週）	0.89	35.4%
オホーツク圏	35.6%（48床）	756.2人/週（2037人/週）	0.78	37.4%
釧路・根室圏	37.8%（73床）	676.1人/週（1974人/週）	0.90	52.1%

※地域別の病床使用率や新規感染者数等の数値は、変動が大きくなる場合があることに留意。
※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、振興局別(圏域別)の新規感染者数は届出があった医療機関の所在地別となっている。また、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
※札幌市以外の各圏域の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数を含めて算出。
※北海道陽性者登録センター分は地域別の内訳が把握できないため、陽性率の算出には含まれていない。
※検査数に無料検査、抗原キット自己検査等を含まないため、陽性率が100%を上回る場合がある。

総　評　①

【全国の状況】

○ 全国では、新規感染者数の増加傾向が続き、ほぼ全ての地域で先週比が1を上回っている。国の専門家からは、今後の感染状況について、増加速度の鈍化がみられ、ピークを迎える可能性もあるが、感染者数はただちに減少に向かうことなく、横ばいや再度増加する可能性もあり、注意が必要、と指摘されている。北海道は引き続き、10万人当たりの新規感染者数が全国最多となっている。

※参考：11月24日、新規感染者数先週比　山形1.00、東京1.06、大阪1.10、福岡1.06（北海道調べ）

【医療提供体制】

○ 病床使用率については、52．0%と、増加傾向が続き、50%を超える水準となっており、入院患者数は11月23日には過去最多を更新している。また、札幌市についても56．4%となっている。地域においては、道北圏、十勝圏で高い水準となっている。重症病床使用率は増加しており、10．3%となっている。

【感染状況】

○ 新規感染者数は、人口10万人当たりでは1046．1人となっており、11月12日以降、1，000人を超える状況が続いているが、今週先週比の増加幅は減少してきており、国の専門家からは、北海道での増加は頭打ちの傾向もみられる、と指摘されている。なお、直近の今週先週比は、1を下回っているが、休日による休診の影響も考えられる。年代別では、30代以下の割合が減少し、約5割となっており、その他の年代の割合が増加している。

総　評　②

【今後の対策】

○ 道においては、新規感染者数や病床使用率など現在の状況を踏まえ、政府対策本部の決定や基本的対処方針の変更を待たず、11月15日から、道民の皆様に基本的な感染防止行動の徹底と対策の強化についてお願いしているところであるが、医療のひっ迫を回避し、社会経済活動をできる限り維持していくため、引き続き、市町村や関係団体と連携し、呼びかけを強化する。

○ 道内の流行株は、BA.5系統が主流となっているが、これまで札幌市でBQ.1.1系統が2件検出されている。国の専門家からは、オミクロン株の亜系統については、今後、さらに割合が増加する可能性があり注視が必要、と指摘されており、引き続き、ゲノム解析により、道内における動向を監視していく。

※欧米では、BQ.1系統やBQ.1.1系統の占める割合が増加している国もあり、今後、さらに割合が増加することが見込まれているが、現時点では感染者数の顕著な増加は確認されていない。(R4.11.22 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード)

○ 病床確保料の見直しについては、地域の実情に応じた柔軟な運用などについて、全国知事会とも連携しながら、国に求めてきたが、11月21日、国の通知が発出され、都道府県の裁量で概ね従来どおりの運用が可能となった。道としては、国の通知を踏まえ、従来どおりの運用を基本とした対応を検討しており、今後、こうした内容について関係団体や医療機関に丁寧に説明しながら、引き続き、病床の確保に努める。

総　評　③

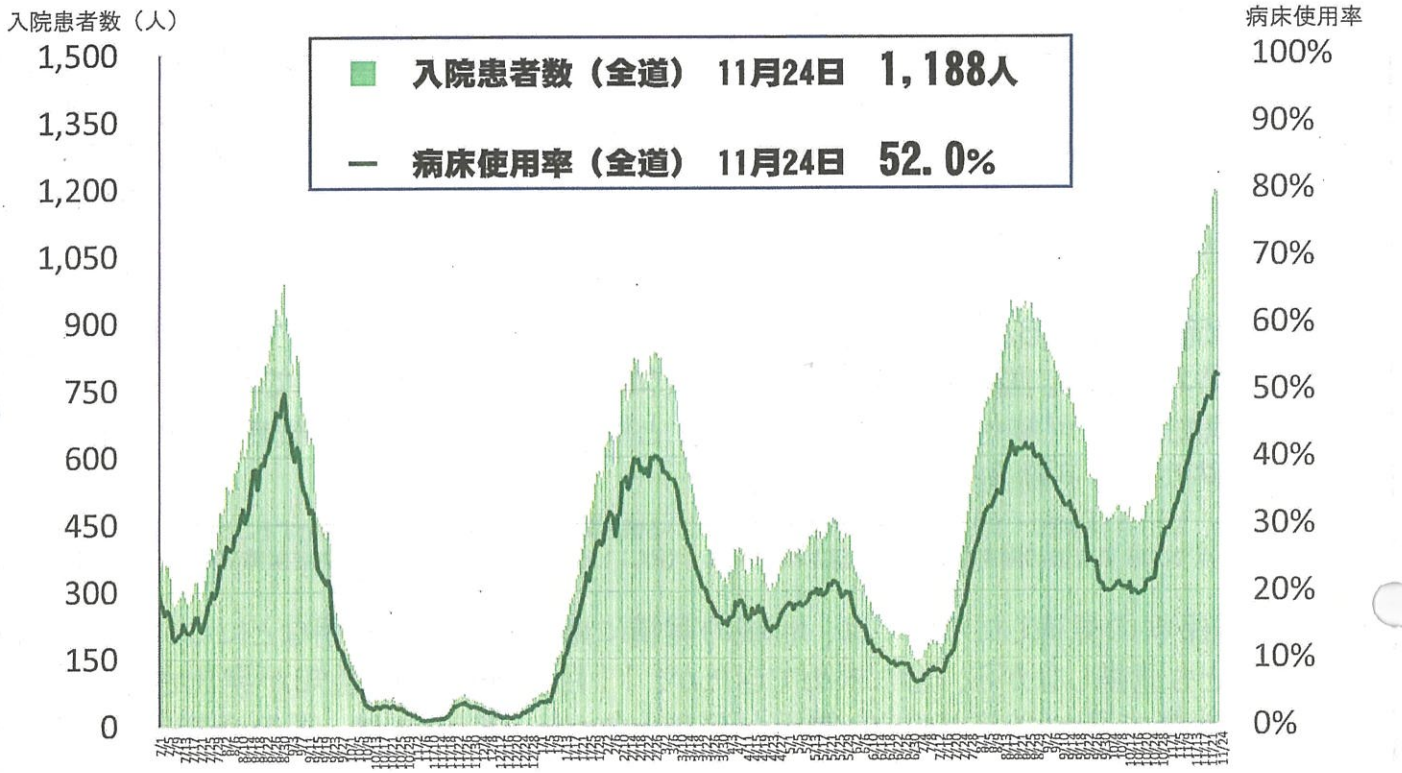
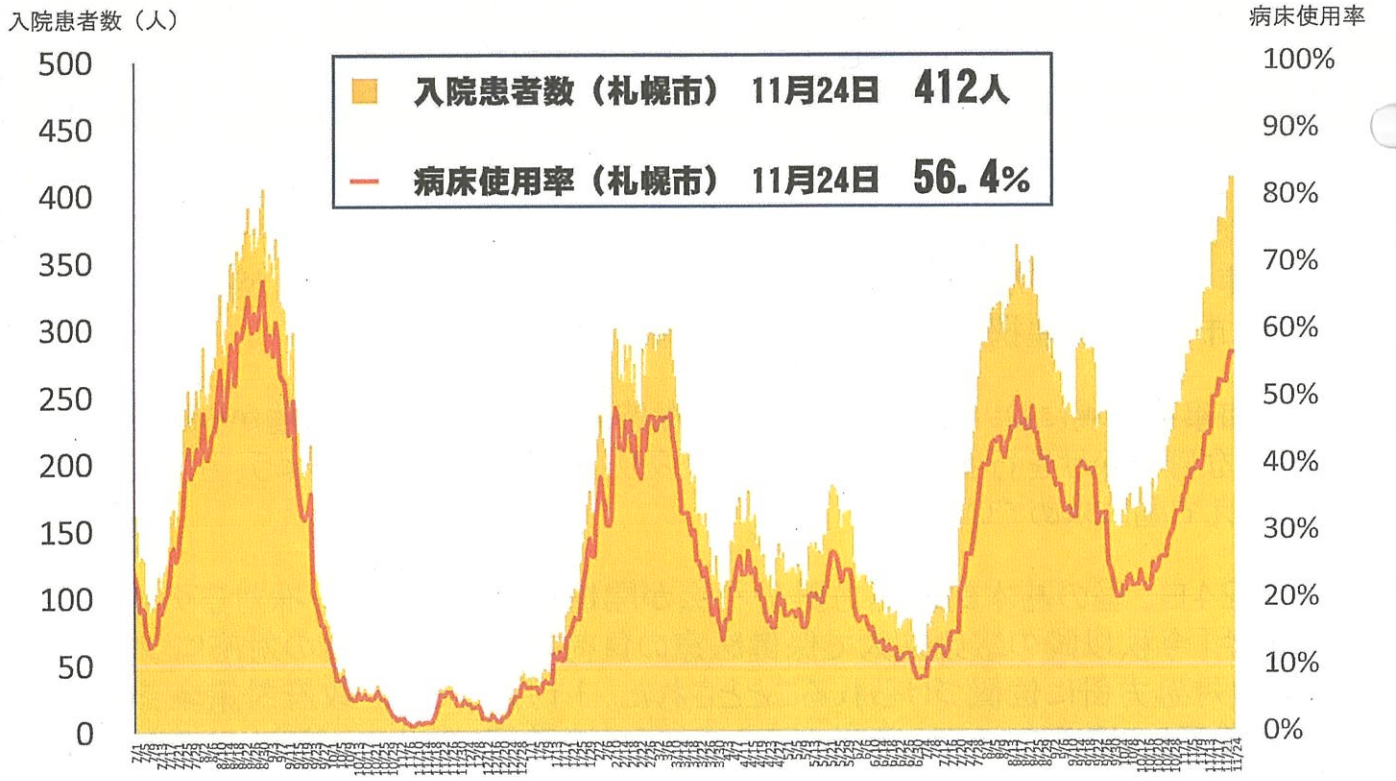
○ 重症化リスク因子のない軽症から中等症患者に投与可能な経口薬が11月22日、緊急承認され、今後供給が開始される。新規感染者数が全国最多となっている状況を踏まえ、道内における必要数ができるだけ早期に確保されるよう、国に求めるとともに、速やかに処方が開始できるよう、医療機関等と調整を進める。

○ オミクロン株対応ワクチンの接種については、11月、12月に接種のピークを迎えることから、速やかな接種の検討を呼びかけるなど、年内に希望する方全員が接種いただけるよう、市町村とも連携しながら、集中的広報を展開する。

○ 全国知事会の場において、現在の全国的な感染拡大を踏まえ、総理から国民に対する必要な呼びかけを行うよう求めたところであり、早期に実施されるよう、引き続き、機会を捉えて国に求めていく。

○ 11月24日、国の基本的対処方針分科会が開催され、「オミクロン株対応の新レベル分類」や「今秋以降の感染拡大で保健医療の負荷が高まった場合の対応について」が基本的対処方針に位置づけられることとされた。11月25日に、政府対策本部で決定される見通しであることから、今後、国の通知などを確認した上で、道としての対応の考え方を速やかに整理し、有識者に意見を伺うなど、検討を進める。

入院患者数と病床使用率（全道）



入院患者数と病床使用率（札幌市）